

## サラサヤンマ (*Sarasaenchna pryeri* (Martin,1909)) の変わった場所での羽化殻を採集

相坂 耕作<sup>1)</sup>・東 輝弥<sup>2)</sup>

### 1. はじめに

サラサヤンマの生息地は樹林に囲まれた平地から丘陵地の低湿地にいて、幼虫はこれらの湿地帯の水位が浅い所とか道横の排水溝などに生息している。そして羽化するところは付近の木立からしている。しかしこのような場所で無い所から羽化殻を採集したので参考になればと思い報告します。

### 2. 採集場所とその環境

採集地は兵庫県赤穂郡上郡町の赤松の郷昆虫文化館建物。この建物は平地より一段高く中世期の武将の邸宅跡地で元町立幼稚園の建物を利用している。建物がある環境は前が運動場としての広場、後は山が迫っていて雑木と竹林になっている、その横に畑地がある、敷地の周囲には排水溝がめぐらされている。また建物の周囲には

排水溝が廻らされ側溝蓋で覆われている。羽化殻はこの建物の壁および設置されている品物に付着していた。これらの場所は建物の裏側の日陰である。

### 3. 幼虫の生息場所

幼虫の生息場所と思われるのは建物の周囲の排水溝か敷地の周囲の排水溝しかない、建物周囲の排水溝は溝蓋が設置されている雨が降った時しか水はない。敷地周囲の排水溝に蓋はなく落ち葉がある程度溜まっていて山からの浸みだし水である程度しめっている。それと建物の西側に小さい池というか水たまりが有り菖蒲が一面に繁茂している。これらのうち有力なのが建物周囲山側の排水溝である。ここから建物まで距離は近くて1.5メートル、最長で5メートルほどある。サラサヤンマの幼虫は羽化の時移動距離は長いがあるので可能と思う。



図1 2017/07/08.



図2 2018/05/03.



図3 2019/11/02.



図4 2020/05/23.

<sup>1)</sup> Kousaku AISAKA 赤松の郷昆虫文化館；<sup>2)</sup> Teruya AZUMA 兵庫県高砂市

今までに一度も調査していないので調査の必要がある。

#### 4. 羽化殻の採集日

1. 2017/07/03 飼育籠の側面 棲息地予想地より 5m
2. 2018/05/03 建物の側面 棲息地予定地より 5m
3. 2019/11/02 建物の側面 棲息地予定地より 1.5m
4. 2020/05/23 設置箱の側面 棲息地予定地より 4m

これら羽化殻の採集は最初に相坂が見つけたもので後は気づいたときに見て回って見つけたもので羽化時期からずれているものが有る。写真は東が撮影している、羽化殻は相坂が保管している。

#### 5. 考察

サラサヤンマは産卵されてから羽化するまでに1年～3年かかるみたいなのでこのような場所では餌になる生き物が少ないので3年はかかると思う、そして毎年羽化してくると付近を探すが1頭分しか見つからない。産卵される卵は1卵だけでは無いと思うので、もしかしたら共食いすることで生き延びて羽化するのだろうか不思議である。

#### 6. 参考文献

- 青木典司, 1998. 神戸のトンボ. 156pp., 財団法人神戸市スポーツ教育社.
- 尾園 暁・川島逸郎・二橋 亮, 2012. 日本のトンボ. 531., 文一総合出版.
- 山本哲央・新村捷介・宮崎俊行・西浦信明. 2009. 近畿のトンボ図鑑. 239pp., いかだ社.
- 武藤 明. 1958. サラサヤンマの生態. Tombo 01;(2-3):12-17.
- 石田昇三. 1958. サラサヤンマの脱皮殻を採る. Tombo 01;(18-19).
- 尾花 茂・井上 清・東 輝弥. 1965. サラサヤンマ幼虫の採集と羽化.
- 清水典之. 1973. サラサヤンマの羽化殻を8月に採る. 昆虫と自然. 08;(02):29.
- 笹本彰彦・久松定智. 2002. サラサヤンマ幼虫採集記録. アオハダ 1:28-29.
- 清拓哉・本田照雄・久松定智. 2003. サラサヤンマ幼虫の記録. アオハダ 2:40.
- 福井順治. 1996. サラサヤンマ幼虫の令期と飼育記録. Aeschna 3:9-13.
- 新井裕・広瀬良宏・須田真一. 1992. サラサヤンマ幼虫の採集記録. 月刊むし 257:35.